

令和8年度 総合研究所 研究課題一覧(令和8年5月1日現在)

所属部署	申請代表者	研究課題	申請代表者	研究課題
法学部	足立 和彦	ギ・ド・モーパッサンのリアリズム美学の生成と発展	長谷川 乃理	韓国における商法典の成立と改正
	伊川 正樹	譲渡所得課税に関する日米法比較	前田 智彦	法使用行動に対する評価の規定要因の実証的研究 ―サーベイ実験によるアプローチ―
	伊藤 亮吉	目的犯と処罰の前置化における理論的基盤の確立に関する研究	松田 恵美子	社会秩序維持方法追求のために制定法、道徳的規範、個人の自律力の相互関連を検討する
	仮屋 篤子	不正行為における被害法益と損害についての研究	柳澤 武	雇用社会における年齢規範の生成と変動 ―日米の比較研究―
	近藤 敦	移民統合法制の比較研究	米田 勝朗	本学女子駅伝部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究
二本柳 誠	未遂犯処罰について			
経営学部	桑島 薫	女性を対象とした社会福祉施設の「記録ファイル」の視点と意味に関する実践人類学および社会福祉学による質的研究	鳥居 弘志	高付加価値商品・サービスのマーケティング
	高山 晃郎	発展途上国の金融市場の進展に関する研究	東田 明	パラドックスを考慮した環境経営の究明
	田中 武憲	次世代技術が愛知のモノづくりに与える影響と課題解決のための地域連携モデルの構築		
経済学部	伊藤 志のぶ	現代日本における地方活性化の諸問題と企業・行政システム	佐土井 有里	技術形成の国際比較(東南アジア・中国を中心に)
	太田 志乃	CASE変革期に問われる異分野技術・中小ベンチャー企業のあり方	杉本 大三	アジア諸国における農業・食料政策の変容と農業・農村
	勝浦 正樹	世帯属性による家計消費・生活行動の因果構造に関する実証的研究	谷村 光浩	「量子都市ガバナンス(Quantum Urban Governance)論」の構築
	小泉 和也	本学ラグビー部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	名和 洋人	アメリカ経済政策史
	斎藤 智美	ユーロの国際通貨としての発展		
人間学部	加茂 省三	ヨーロッパ社会と国家によるグローバルな影響の史的展開	谷口 義則	日本列島における淡水魚類に対する温暖化の影響予測に関する研究
	志村 ゆず	高齢者の回想法に関する研究	畑中 美穂	災害救援者の惨事ストレスに関する研究
	高橋 香苗	地域移動とライフコース選択に関する選択		
都市情報学部	伊東 嗣功	生体信号を利用した覚醒状態の検出技術の開発と応用に関する研究	田口 純子	市民・子どもに向けた建造環境教育の実践知抽出・体系化と専門家育成に関する研究
	大野 栄治	温暖化影響および温暖化対策の経済評価	張 昇平	AIによる水環境と水環境対策の評価
	鎌田 繁則	公的介護保険の導入と介護サービス供給体制に関する理論的・実証的研究	福島 茂	グローバル経済化のもとでのアジア大都市圏の居住形態とその形成メカニズム
	柄谷 友香	「中核被災者」を主体とした被災限界からの自律再建メカニズムの解明	水野 隆文	数理的意味決定システムにおける人工知能技術の応用と社会実装
	川島 佑介	イギリスにおける多元的ガバナンスの解明	宮本 由紀	地方自治体の子育て支援政策に関する実証分析
	杉浦 伸	数理計画学、オペレーションズ・リサーチの都市情報学、サービスサイエンスへの適用	森 龍太	環境変化に起因した行動変容の補足および評価のあり方に関する研究
	杉浦 真一郎	高齢者福祉・介護保険行財政の地理学的研究	山谷 克	デジタル信号の幾何学的構造を利用した数理モデルに基づく信号伝送アルゴリズムの開発
	鈴木 淳生	非完備市場モデルによる金融派生証券の評価	若林 拓	道路網の信頼性解析の効率化の研究
	鈴木 千文	歌声のビブラートに着目したデフォルメの工学的解明に関する研究		
	赤堀 俊和	固溶化処理した菌科用セミプレシヤス合金のマイクロ組織と特異強化機構の関係	谷口 彩乃	ソルボサーマル法による金属酸化物多孔体の合成とその触媒応用
理工学部	芦澤 怜史	屋外作業ロボットののためのロボットアーム動作計画および作業のためのエンドエフェクタによるハンドリングの研究	谷田 真	人間と構築環境との相互関係性に関する研究
	池邊 由美子	化学的溶液法を用いた超伝導フィラメントの作製と評価	張 天昊	曲線折り紙による軽量展開構造の開発
	石川 靖晃	コンクリート建造物の建設工程シミュレーターの開発	塚田 敦史	重いユーザーの力学的シーティングシミュレーション
	伊藤 昌文	プラズマバイオの基礎と応用に関する研究	土屋 文	水素同位体イオン照射下におけるシリコン炭化物の動的照射誘起効果
	岩下 健太郎	連続繊維複合材を用いた補修・補強材料の開発	道正 泰弘	持続可能な建築資材および工業副産物のリサイクルシステムに関する研究
	宇佐美 初彦	樹脂/金属複合体の開発とその摩擦摩耗特性の評価 Development of polymer-metal composites and evaluation of the tribological properties	中島 公平	e-fuelを用いたニストロークDIエンジンの潤滑計画
	榎本 暁	日本人英語学習者による英語聴解における問題点とその訓練法に関する研究	永田 央	光合成を規範とした物質変換システムの構築
	遠藤 祐輝	近赤外線分光法による筋機能評価に関する研究	中村 一樹	カーボンニュートラルな交通を促進するウォークプルシティの将来ビジョン評価
	大藏 信之	渦輪の変形崩壊過程における渦構造	西村 尚哉	構造運動体の衝突安全性評価に関する研究
	太田 貴之	プラズマを用いた高機能材料の合成プロセスに関する研究	橋本 英哉	例外的単純Lie群とSpinor群を用いた幾何学
	大塚 貴弘	鋼構造部材の座屈挙動に関する研究	原田 守博	流域における水循環の再生と水災軽減
	大知 聖子	中国北朝期における出土資料を用いた社会集団の分析	平岩 陸	粘弾塑性サスペンション要素法によるコンクリートの破壊挙動および収縮挙動に関する研究
	大原 賢一	農業自動化のための自律移動システムの開発 RRI標準仕様に基づいたロボットシステム実装に関する研究	平松 美根男	カーボンナノ構造体の形成メカニズムの解明と成長の制御に関する研究
	小澤 哲也	グラスマン多様体の位相	広瀬 正史	衛星搭載降水レーダーによる降水気候の抽出と評価
	景山 伯春	微生物・植物の環境ストレス応答の分子基盤解析	深川 健太	視覚刺激が人間の心理評価に及ぼす影響に関する研究
	片桐 誠之	水処理・水資源循環利用技術の開発	藤井 幸泰	画像計測を用いた地質および地盤情報の可視化と数値化に関する研究
	片岡 啓介	ジルコン酸リチウムによる水および二酸化炭素の吸収反応とメタン生成メカニズムの解明	古川 裕之	時間発展流れ場中における超臨界分岐と攪乱発達過程の特定に関する研究
	加藤 幸久	成人病の運動療法 ―ライフスタイル変容による行動療法―	ベトロス・アブラハ	電子ビーム励起プラズマによる超硬質薄膜創製法の開発
	上山 智	ワイドギャップ半導体によるトンネル接合を用いた新規短波長デバイスの開発	堀田 一弘	ディーラーニングの異分野への応用
	菅野 望	化石代替燃料の着火特性解明に向けた反応素過程の検討	本田 真己	環境低負荷型有機触媒を用いた新規カロテノイド加工技術の開発
	来海 博央	ナノ・マイクロレベルでの材料特性評価技術の開発による高信頼性・高機能性材料の設計技術の確立	益田 泰輔	再生可能エネルギーが大量導入された将来の電力システムにおける計画・運用・制御
	葛 漢彬	土木鋼構造物の耐震設計法の開発に関する研究	増山 岳人	数理表現学習を用いた強化学習
	久保 貴	乱流中の多成分物質の拡散・混合に関する研究	松田 和浩	低～高層木質建物の耐震技術開発
	熊谷 慎也	細胞への刺激付与による生体反応の制御に関する研究	丸山 隆浩	カーボンナノチューブの結晶成長に関する研究 カーボンナノチューブの生成効率の向上と応用
	小高 猛司	各種ジオマテリアルの変形・強度特性の解明と地盤挙動解析への適用に関する研究	三浦 彩子	東アジアの禅宗建築史及び庭園史に関する基礎的研究
	才田 隆広	種々の酸化物を用いた燃料電池用電極触媒の開発と活性発現要因の解明	溝口 敦子	土砂動態を考慮した戦略的河川管理の提案
	齊藤 公明	確率過程の構成的研究と量子情報解析への応用	三宅 克英	草食性陸ガニの生態と生理活性についての解析
	齊藤 毅	東海層群の花粉群集と古環境	武藤 厚	空間構造の耐震性能評価と向上策に関する研究
	佐伯 壮一	皮膚組織粘弾性と毛細血管における微小循環相互作用のマイクロ断層可視化解明	村上 祐一	高電界を用いた食品殺菌技術に関する研究
	榊田 創	物質表面の荷電分布計測	村瀬 勇介	多孔質触媒体における水分吸着モデル及び水分輸送マルチスケールモデルの理論解析と数値解析
	佐藤 布武	散居集落における伝統的デザイン手法、景観構成要素の地域差に着目して	村田 英一	次世代電力用遮断機の最適設計および開発
	清水 憲一	優れた成型性および信頼性を有する純チタン箔材の開発		電子間相互作用を考慮に入れた熱電子銃の数値解析に関する研究
	神藤 定生	分子配向型の酵素を導入したシアノバクテリアによる二酸化炭素からのエチレン生産	森口 舞	カリブ諸国におけるナショナリズムの研究
	竹内 哲也	窒化物半導体レーザーダイオードに関する研究	山崎 彬人	ドライバの視認対象物の可視化と周辺環境認知状態推定
	竹田 圭吾	光・プラズマ技術を用いた微細加工・ナノ材料合成に関する研究	楊 劍鳴	バイオメタンガスエンジン発電機の安定化・効率化およびプロトタイプによる検証
	田崎 豪	カメラによるロボットの移動作業技術の開発	六田 英治	単原子電子源の超高輝度化とシームレス・ナノ電磁界シミュレーションによる単一生体分子顕微鏡の
	田中 義人	遺伝子組換え植物を用いた環境ストレス応答機構の解析	渡辺 孝一	鋼製橋梁の安全性と修復性の向上に関する研究
	田中 正剛	基質の構造特異的にゾル-ゲル転移する自己組織化ペプチドの開発		

所属部署	申請代表者	研究課題	申請代表者	研究課題
情報工学部	川澄 未来子	画像の色彩情報における美的感性の特徴量の抽出	野崎 佑典	AIデバイスのセキュリティ対策手法に関する研究
	鈴木 秀和	シームレスな通信接続性と移動透過性を実現する通信アーキテクチャに関する研究	坂野 秀樹	柔軟な声質制御が可能な歌唱音声合成システムの構築
	高比良 宗一	数値線形代数に関連した量子アルゴリズムに関する研究	柳田 康幸	五感インタラクションによる現実空間と情報空間の融合
	田中 敏光	スマートグラスに適した指先を見る必要がない片手親指による文字入力システム	山田 啓一	少数データからの画像認識モデルの学習
	寺本 篤司	人工知能を用いた医用画像処理に関する研究		
農学部	天野 健一	ライン光ピンセットによる粒子間相互作用と粒子表面構造の理解	津呂 正人	ラベンダーの形質変異と精油生成関連遺伝子の探索に関する研究
	磯井 俊行	自然栽培成立要件に関わる土壌肥料的な研究	藤 茂雄	植物ホルモン超感受度レセプターの開発
	上船 雅義	植物が創出する生物間相互作用ネットワーク	中尾 義則	果樹の環境適応能力とその獲得機構
	氏田 稔	糖鎖遺伝子と糖質関連タンパク質の構造と機能	長澤 麻央	畜産物の摂取を介したストレス制御法の探索
	大浦 健	未規制リスク因子の環境動態解析ならびに生体影響評価	新妻 靖章	野生動物のエネルギー・ダイナミクスに関する研究
	奥村 裕紀	脊椎動物受精の分子メカニズムの解明と人為的制御法の開発	橋本 啓三	サンバを頂点とした里山生態系の保全に関する研究
	長田 典之	暖温帯林に共存する落葉広葉樹の展葉フェノロジーの温暖化応答予測	濱本 博三	機能性物質の特性をいかしたバイオ触媒型反応法の開発と生物活性化合物合成への応用
	加藤 雅士	有用糸状菌の転写、翻訳、タンパク質の局在化調節機構の解明とその応用	林 利哉	食肉の機能改善に関する研究
	黒川 裕介	エチレンのイネ葉身/葉鞘長に及ぼす生理学的効果	林 義明	未利用資源を用いた家畜の生産性向上と家畜の新たな活用法に関する研究
	香村 恵介	ウェアラブルセンサを用いた幼児の24時間身体行動評価法の開発	平児 慎太郎	農山村景観の保全・管理に向けた合意形成の経済評価
	兒島 孝明	固相培養条件下の麹菌における遺伝子の動的発現制御機構の網羅的解析技術の確立	平野 達也	イネの生育と炭素および窒素代謝制御に関する研究
	近藤 歩	CAM植物における環境ストレス応答機構に関する研究	細田 晃文	微生物の酸化・還元能を利用した金属回収技術に関する研究
	志水 元亨	糸状菌の植物バイオマス分解酵素の探索	前林 正弘	弾性表面波によるハイドロゲルの弾性特性に関する研究
	鈴木 康生	非生物ストレスによる、園芸作物の品質保持に関する研究	松儀 真人	生物活性物質合成を指向した新反応開発
	田村 廣人	人工化合物の環境動態および毒性発現機構に関する研究	湊 健一郎	食品因子の生活習慣病予防効果における網羅的解析
	近澤 未歩	リボソームプロファイリングと転写翻訳制御機構に関する研究	武藤 将道	比較発生学的手法による今梅雨類の系統進化的研究
	塚越 啓央	自然免疫系の制御を介した食による健康効果の解明	村野 宏達	汚染土壌中の疎水性有機化学物質の存在形態に土壌有機物が与える影響の解析
	井藤 千裕	植物資源から新規抗がん作用物質の発見と応用研究	ツバキ属植物を中心とした園芸植物の分類的研究	
	衣斐 大祐	抗精神病薬の慢性使用が認知機能に与える影響	築山 郁人	抗がん剤、分子標的薬の最適投与設計を可能とする分子診断法開発基盤研究
	植田 康次	生体関連元素・低分子の総体評価を基盤とした毒性・衛生化学	都築 孝允	運動による肥満・糖尿病の改善効果におけるレドックス制御機構の役割
打矢 恵一	サルモネラ菌の病原因子の機能解析と新規薬物療法への展開	仲吉 朝希	計算化学手法に基づく薬物代謝酵素の遺伝子多型が基質の認識に与える影響の推定	
	非結核性抗酸菌症の増加要因の解明と予防および治療への応用	西川 泰弘	カチオン性複素環を電子伝達に利用する新規合成手法の開発	
薬学部	梅田 孝	名城大学体育会運動部員のスポーツ医学的手法を用いた強化、育成方法の考案と実践に関する検証	丹羽 敏幸	薬剤ナノ粒子設計のための製剤基盤技術の開発
		本学運動部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	根岸 隆之	環境化学物質ばく露が脳の構造と機能に与える影響の包括的評価系の確立：遺伝子発現から高次脳機能まで
	大津 史子	患者の自覚症状(訴え)及び患者背景からの医薬品副作用の推測に関する研究	能勢 充彦	漢方方剤の科学的解析－薬効の有用性評価とその作用機序の解明
	岡本 浩一	患者の自覚症状(訴え)及び患者背景からの医薬品副作用の推測に関する研究	野田 幸裕	精神疾患における情動・認知障害と神経変性に関与する脆弱分子の探索・モデル動物と臨床からのアプローチ
	奥田 知将	製剤の肺内分布を考慮した遺伝子微粒子吸入剤の開発	橋本 和宜	糖尿病治療薬による副作用発現機構の解明
	小田 彰史	肺内ナノ粒子形成型吸引粉末剤の開発	長谷川 洋一	薬剤師需給及び薬剤師の専門性に関する研究
	加藤 美紀	残基の変異タンパク質立体構造に与える影響についての分子シミュレーション	原 脩	低環境負荷型反応剤の開発と応用
	金子 美由紀	薬物動態関連因子を介した薬物相互作用ならびに毒性発現に関する研究	半谷 眞七子	患者満足度の向上を目指したコミュニケーションスキルトレーニングの構築
	亀井 浩行	本学バレーボール部員における適切なトレーニング方法、コンディショニング(栄養摂取・休養の取り方)方法の考究、構築に関する研究	日坂 真輔	脂質過酸化由来の修飾構造をバイオマーカーに用いた生薬及び漢方方剤の科学的解析
	河地 真理子	精神疾患における認知機能評価法の構築	平松 正行	認知症モデル動物に発現する遺伝子の固定に関する研究
	北垣 伸治	VSIRを標的とする腫瘍がん新規分子標的治療の創出	藤井 正徳	アトピー性皮膚炎の痒みおよびバリア異常に対する新規治療薬の創薬研究
	小島 良二	効率的な分子変換及びそれを実現する触媒の開発研究	間宮 隆吉	脳機能障害改善物質の探索と食品および医薬品への応用
	小森 由美子	腎臓疾患の発症・進展に関与する新規遺伝子の同定	水野 初	1細胞質量分析法によるオルガネラメタボロミクスの開発
	近藤 啓太	蛇毒、および真菌由来酵素の生理作用に関する研究－細胞障害性を中心として－	水本 秀二	グリコサミノグリカン糖鎖の合成異常による遺伝病とがん・アルツハイマー病の解析
	酒井 隆全	ヒト常在菌によるバイオフィーム形成に関する研究	村田 富保	多機能性タンパク質レギュラチンの病態生理的役割に関する研究
坂井 健男	機械的乾式処理法による機能性微粒子製剤の粒子設計	守屋 友加	遺伝子診断に基づく小児薬物療法の最適化に関する研究	
杉山 栄二	医療ビッグデータを用いた妊婦の医薬品安全性に関する薬剤疫学研究	柳澤 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築	
高谷 芳明	電子求引的シクロペンタジエニド塩を用いた新規反応開発	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究	
武永 尚子	組織標本中キラル分子の網羅的イメージング法の開発	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開	
外国語学部	高谷 芳明	食品中の機能性分子の探索研究	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発
	武永 尚子	高反応性炭素-ヨウ素結合を利用した新規変換反応の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
理工学研究科	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
教職センター	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		
	宮下 大夢	ASEANの「保護する責任(R2P)」に関する実証研究 -ミャンマー政治危機を事例に		
	柳沢 聖	クリニカルプロテオミクス解析による悪性腫瘍の新規分子診断・治療法の開発基盤構築		
	山田 修平	ヒアルロニダーゼの医療応用を指向した生化学的研究		
	吉田 圭佑	キララなビリジンN-オキソ触媒の創製とエナンチオ選択的シリル化への展開		
	輪島 文明	ヒト組織感染モデルを用いた治療効果を指標とする新たな治療薬評価系の開発		
	藤原 康弘	国際英語論と批判的応用言語学に基づく英語教育・教員養成に向けて		
	増田 昌幸	労働生産性を向上させるための方策としての組織開発の実証的研究		